

基本構想検討シート

テーマ：地球環境にやさしいまち ～水と緑にふれあうまちづくり～

10年前の書きぶり（4次長計）		
構想レベルの課題	構想レベルの方針	方針に基づく基本事業（参考）
① 水と緑に代表されるかけがえのない環境資源を次世代に引き継いでいかなければなりません。	<ul style="list-style-type: none"> ・東久留米の貴重な財産である、湧水をはじめとする水辺資源や雑木林などの自然環境を、市民一人ひとりの理解と協力のもとに次世代に引き継いでいきます。 ・「水と緑」の保全と活用方法などについて、市民参加によるネットワークづくりなど、さまざまな工夫を加え、自然と気軽にふれあえる空間の確保や機会の提供に努めます。 	<input type="checkbox"/> 水辺環境の保全と活用 <input type="checkbox"/> 緑の保全と活用

このテーマについて現状の課題などを書き出してみると・・・

5次長計	
以下、「施策の評価・検証」、「基礎調査データ」、「市民・団体アンケート」より課題などを抜粋しています。	今の課題、方向性に対するキーワードは
<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な水辺環境を保全していく方ためには、ごみのポイ捨て、生活排水などの流入による河川の汚濁など、社会のルールやマナーを守るよう広く呼び掛けを行う必要がある。 ・河川改修などに当たっては、自然環境への影響を最小にするように検討を行う必要がある。 ・緑は、生物の生息空間、湧水のかん養域となるだけでなく、市民の憩いの空間を創出、さらには防災上の拠点となる。しかし、制度により保全されていない雑木林や農地などの民有地の場合は、市街地化の進行により減少している。 ・東久留米市は、南沢緑地等、東京の名湧水に選ばれた3箇所を含む湧水と、これらの湧水を水源とする黒目川、落合川等が流れている。 ・平成20年6月に、「落合川と南沢湧水群」が、環境省の「平成の名水百選」に都内で唯一選定されている。 ・31.8%の市民が市の目指すべきまちの姿として「身近に自然とふれあうことができるまち」と答えた。 ・本施策に市民の54.7%が満足、11.4%が満足していない。 ・本施策を市民の74.7%が重要と考えている。 ・市民が考える優先すべき取組みとして、「湧水や水辺環境の保全」、「河川の適切な維持管理」、「計画的な緑地の維持管理」の順で高くなっている。 	<p>ご意見を準備していただくためのメモ欄です</p> <p>■水辺環境の保全と活用では、</p> <p>■緑の保全と活用では、</p> <p>■このテーマに欠けている視点は、</p>